

平成 26 年度 松原内湖遺跡から出土した鎌倉時代末期の巻数板（勸請板）について

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、国土交通省滋賀国道事務所および滋賀県教育委員会からの依頼により、国道 8 号米原バイパス事業に伴う松原内湖遺跡の発掘調査を、平成 24 年度から実施しています。

今年度は 8,000 m²を対象とした調査で、鎌倉時代末期、元徳三年(1331)正月八日の年号を記した、近畿地方初となる巻数板(勸請板)が出土しました。巻数板は、現在、近畿地方を中心に全国の正月行事で行われている勸請吊りにも用いられており、現在と中世とをつなぐ貴重な資料といえます。

- (1) 遺 跡 名：松原内湖(まつばらないこ)遺跡
- (2) 所 在 地：彦根市松原町地先
- (3) 調査期間：平成 26 年(2014 年)4 月～平成 27 年(2015 年)2 月予定
- (4) 調査面積：8,000 m²
- (5) 調査主体：滋賀県教育委員会
- (6) 調査機関：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

1. 調査の経緯

国道 8 号米原バイパス事業に伴う松原内湖遺跡の発掘調査は、平成 24 年度から実施し、今年度は 8,000 m²を対象に 4 月から実施しています。

今回、巻数板が出土した場所は、地区④の 3,890 m²部分です(図 2)。

2. 調査の成果

(1) 調査地点の概要

巻数板が出土した調査地点は、物生山(むしやま)を背後に旧松原内湖に西面した南北を小さな尾根で囲まれた谷地形にあたります。今回の調査地周辺は北部浄化センターの増設工事や国道 8 号米原バイパス事業に伴う事前の発掘調査により、縄文時代の遺構や奈良時代ごろから室町時代頃にかけての集落跡が見つかっており、今回の調査でも縄文時代の土坑、奈良時代の掘立柱建物、鎌倉時代から室町時代にかけての柱穴・石柵遺構・溝・井戸など、集落跡を示す遺構が見つかっています。

(2) 巻数板について

2-1. 出土状況(写真 1・2)

第 6 調査区の中央付近の土坑から、廃棄された状態で出土しました(写真 1・2)。巻数板以外には、常滑焼の大甕の破片が出土しています。土坑の大きさは、長径約 90cm・短径約 70cm・深さ約 50cm です。

2-2. 巻数板(釈文、写真 3・4)

大きさ：縦 128 mm・横 278 mm・7 mm

形 状：上辺左右端が斜めになり、中央が直線になる絵馬に近い形状です。その直線となる部分の左右に 2 箇所ずつ、計 4 箇所の切り込みを入れ、やや下がった場所に、切り込みと対応するように左右の上下に 2 箇所、計 4 箇所の穿孔があります。紐をそれぞれの切り込みに引っ掛け穴に通して、勸請縄(かんじょうなわ)に吊るしたと考えられます。

材 質：木製。樹種については、未鑑定のため不明です。

内 容：表面に墨書で、仁王(にんのう)経一座、般若心経十二卷、観世音経十二卷を転読し、灌頂(かんじょう)十二流を懸け、率(卒)塔婆(そとば)十二

本を立て、一年間の息災を祈る願文が書かれています。

年月日：願文の最後に年月日の記載があり、吊るされたのが元徳三年(1331)正月八日であることがわかります。鎌倉時代終末・南北朝時代となります。

用途：本巻数板に記された正月八日は、寺院で旧年の悪を正し、その年の吉祥を祈願する修正会(しゅうしょうえ)と呼ばれる法会の最終日にあたります。その際読誦(どくじゅ)した經典の数や願文を書いた板(巻数板)を、屋敷の門や集落の入り口に縄(勸請縄)を張って吊るす儀式があり、その年の1年間吊り下げられたと考えられます。

2-3. 類例(図3~6、写真5・6)

1. 考古資料(図3)

中世の出土例として、石川県金沢市堅田B遺跡出土の1例が報告されています。堅田B遺跡の巻数板は、屋敷地を囲む堀に取り付く溝から出土した、建長三年(1251)・弘長三年(1263)と書かれた2点です(図3)。今回出土の巻数板は、堅田B遺跡に次いで全国で2例目、近畿地方では初めての出土例となります。

堅田B遺跡出土の巻数板と松原内湖遺跡出土の巻数板を比較した場合、下記のような差異が認められます。

- (1)形状：堅田B遺跡例が長方形であるのに対して、本例は現在の絵馬に近い形を呈しています。
- (2)文言：堅田B遺跡例が2点とも般若心經の全文が記されているのに対して、本例は読誦した經典、吊った灌頂や立てた卒塔婆の数と願文のみが記されるなど、簡略化されています。
- (3)出土場所：堅田B遺跡例が堀を伴う屋敷地から出土したのに対して、松原内湖遺跡には堀などがなく、本例は集落から出土しています。

2. 文献・絵巻(図4・5)

応永十四年(1407)成立の説話集『三国伝記(さんごくでんき)』第三卷第十二に、「石山寺の如意輪観音は、正月八日に仁王經を読み灌頂を吊るし、率(卒)塔婆を立てて信仰すれば、七難即滅、七福即生すると教えた。」という勸請縄に関する伝承が記されています。さらに、戦国時代の越後国(現在の新潟県)国人領主色部氏の記録『色部氏年中行事』にも、正月八日の修正会の結願日に、色部氏の館の門の前に般若心經を書いた板を吊り下げる儀礼の様子が書かれています(図5)。

また、正安元年(1299)に描かれた『一遍上人絵伝』にも、家の門に縄を張り、その縄に板を吊るす様子が多く描かれています(図4)。

3. 民俗(図6、写真5・6)

中世の巻数板を吊るす行事と類似行事が、近畿地方を中心に全国の正月行事として行われています。その行事は勸請吊りと呼ばれ、正月に集落の豊穰と安穩を祈願し、神社の入り口や集落の入り口の道を横切って大木に縄を吊るす行事です。

滋賀県でも湖東地域の東近江市を中心に広く行われており、本遺跡出土の巻数板のような絵馬形の祈祷札を吊り下げる集落も認められます(写真5・6)。

本遺跡出土の巻数板と類似する文言のものが、福井県おおい町大島の勸請板(図6)に認められ、本遺跡出土の巻数板と現在の正月行事の関連性が認められます。

3. まとめ

今回出土した巻数板は、堅田B遺跡出土の13世紀の巻数板と15世紀の説話集である『三国伝記』の間を埋める14世紀の巻数板です。さらに、『色部氏年中行事』な

どの記述などから、中世において正月行事として、正月八日に仁王経や般若心経などを読み、巻数板を吊るし、卒塔婆を立てることが、広く行われていたことが確認できました。また、「転読仁王経、灌頂十二流、率塔婆十二本」の記載は、『三国伝記』に記された仁王経を読み、灌頂を吊るし、卒塔婆を立てるといふ説話と一致することも明らかになりました。

今回巻数板が出土した松原内湖遺跡では、堅田B遺跡や『色部氏年中行事』に見られるような国人領主の館や有力者の館のような遺構は認められません。しかし、多数の柱穴が検出されていることから、掘立柱建物からなる集落跡と考えられ、特定の館に巻数板が吊られたというよりは、集落の境界に吊られたと考えられます。

こうした集落の境界に縄を張り勸請板を吊す道切りの行事が、現在も広く行われています。今回の出土は、こうした勸請吊りと呼ばれる道切り行事が、鎌倉時代末から南北朝時代にかけてまで遡る可能性を指摘できます。この点については、福井県おおい町大島で現在も行われている勸請縄に吊るす勸請板と願文に、「当年行疫流行神等」など今回出土の巻数板と同じ文言があり、こうした点からも現在との関係が窺えます。

なお、今回の調査地の隣接する以前の発掘調査で、卒塔婆が1点出土しており、今回の巻数板に記された卒塔婆の12本のうちの1本となる可能性が出てきました。

【用語解説】

巻数板（かんじょういた）・勸請板（かんじょういた）・・ともに指しているものは基本的には同じだが、巻数板は『色部氏年中行事』に記載があり、遺跡から出土した考古資料に対して用いる。一方、勸請板は民俗資料に用いる。

灌頂（かんじょう）・・頭の頂に水をそそぐ仏教の儀式のことで、特に密教では重要な儀式となっている。本遺跡出土の例は教助詞に「流」が使われており、旗やのぼりのようなものを意味していると考えられる。

勸請吊（かんじょうつり）・・ムラの出入口に勸請縄と呼ぶ大綱を掛け渡し、そこに祈禱をした勸請板を吊り出して村内安全や五穀豊穰を祈願する年頭の道切り行事。滋賀県・奈良県・京都府を中心に、近畿地方に広く分布する。

卒塔婆（そとば）・・木製の墓標や、供養のために墓地や霊場などに立てる木製の葬具・供養具。

仁王経（にんのうきょう）・・護国安隠のため般若波羅密多を受け持つべきことを説く。

日本では鎮護国家の三部経の一として法華経・金光明経とともに古くから尊重される。

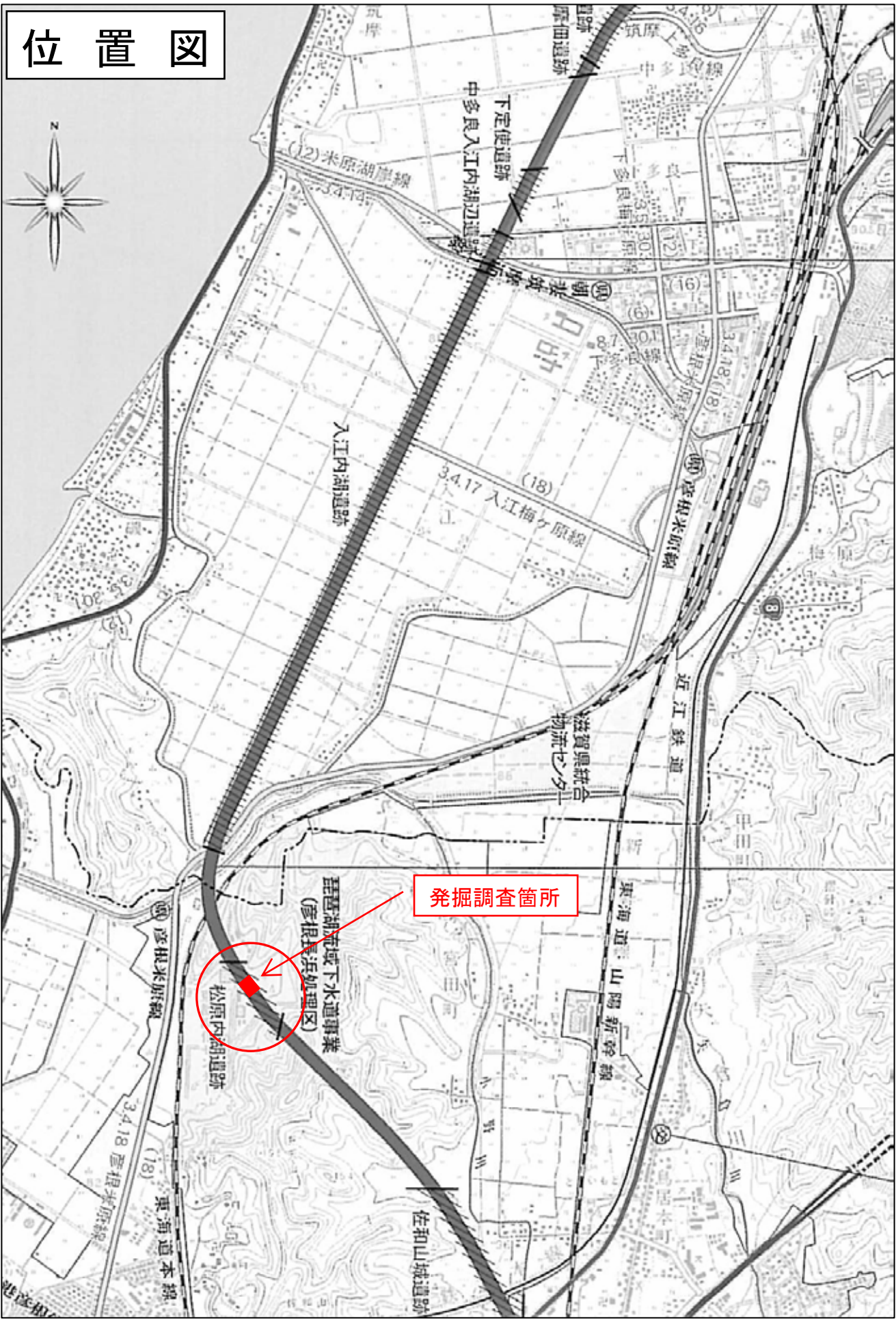
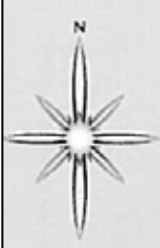
般若心経（はんにやしんぎょう）・・仏典の一つで、般若経の神髄を簡潔に説く。最も流布しているのは唐の玄奘訳に2文字付加した262字から成るもの。

観世音経（かんぜおんきょう）・・法華経第8巻25品（ほん）の観世音菩薩普門品の通称。

衆生（しゅじょう）救済のため種々の身を現ずる観音の靈験を説く。

行疫流行神（ぎょうえきりゅうしん）・・毎年毎年疫病をはやらせる神。

位置図



発掘調査箇所

図1 松原内湖遺跡位置図

平面図

地区④ 3,890m²

地区③ 3,370m²

地区② 740m²

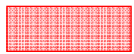
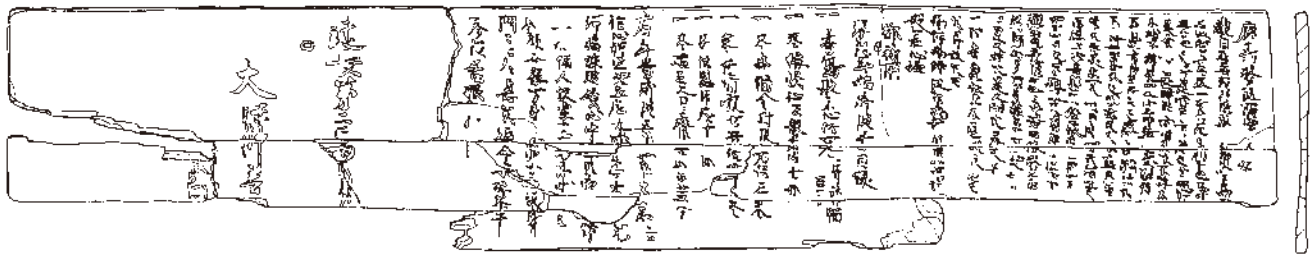
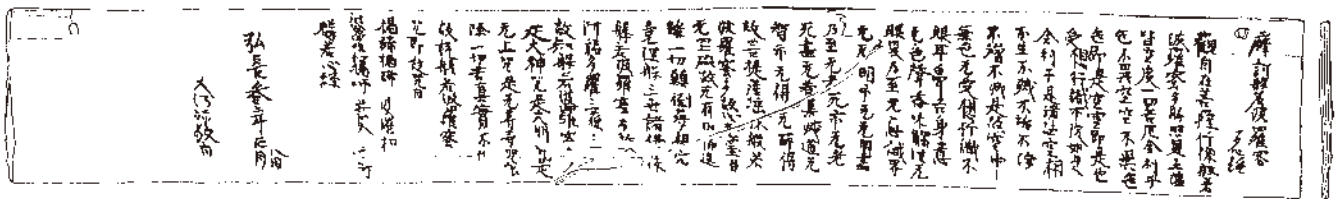
 : 発掘調査依頼箇所(約8,000m²)

図2 調査区位置図



2号巻数板(162mm×820mm×7mm)



1号巻数板(112mm×790mm×7mm)

図3 金沢市堅田B遺跡出土巻数板（鎌倉時代）
（金沢市埋蔵文化財センター2004『金沢市文化財紀要213 堅田B遺跡II』より）



図4 『一遍上人絵伝』に見られる巻数板
（中世）（『日本の絵巻20 一遍上人絵伝』
1988中央公論社より）

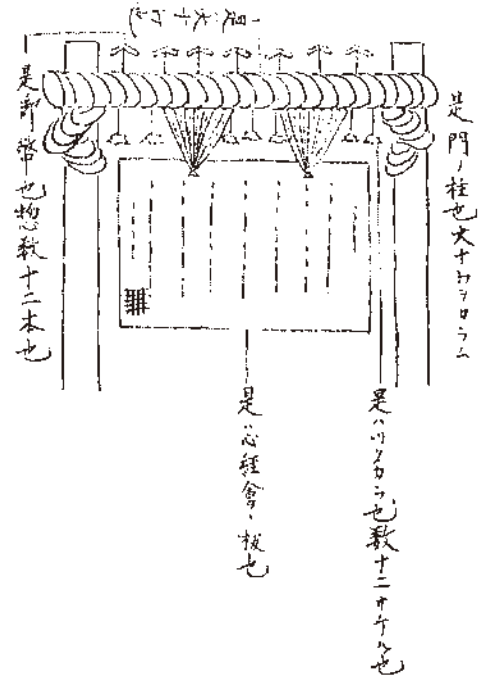


図5 巻数板吊りの図（近世）『色部
氏年中行事』（中野豈任1988『祝儀
・吉書・呪符—中世村落の祈りと呪術—』
吉川弘文館より）

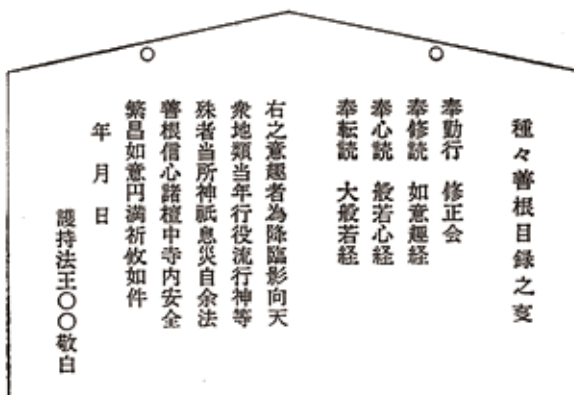


図6 福井県おおい町大島の勸請板（現代）
（和歌森太郎編1966『若狭の民俗』吉川弘文館より）



写真1 第6調査区北半全景（西より）



写真2 卷数板出土状況（南より）



写真3 出土卷数板 (128mm×278mm×7mm)

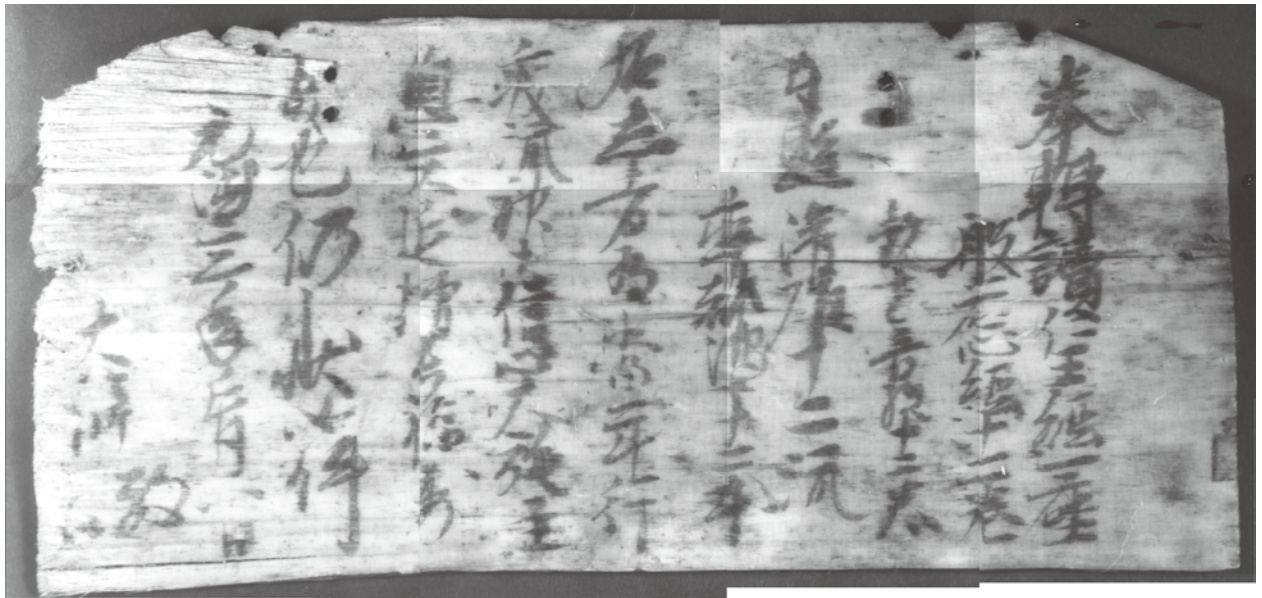


写真4 出土卷数板赤外線写真

积文

奉転読仁王經一座

般若心經十二卷

觀世音經十二卷

奉懸灌頂十二流

〔卒〕

率都婆十二本

右志者為当年行

疫流神等信心大施主

息災延增長福寿

故也仍状如件

元德三年正月八日

大法師

白敬

大意

謹んで転読いたします。仁王經一座般若心經十二卷、
觀世音經十二卷

謹んで掲げます。灌頂十二流、卒塔婆十二本

この趣旨は今年はやり病などが流行しないように、
息災延命、增長福寿を願う、信心の篤い大施主です。

よってこのような次第です。

元德三年(1331年)正月八日

謹んで申し上げます 大法師



写真5 現在の勧請吊り（東近江市蛇溝町長緒神社）



写真6 勧請板（東近江市蛇溝町長緒神社）